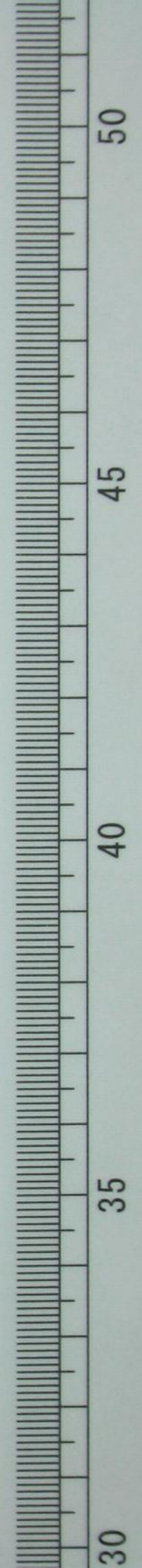




小栴庵日記

昭和貳年  
十月次降

特別  
14  
1919  
600



小栲庵日記

昭和二年十月末の以降

十月三十日

台湾の重栲健より来り、木戸公傳記編纂  
 所をもつたの傳二冊寄せ来り、謝状を差す  
 昂略血運を命じ、ハ時四十分の特急にて  
 戻り行をいとく、此行大坂名古屋の校友  
 会より福又君等が案内遊遊記念する中、  
 美舟金をもちると、私さる也、余先の是し  
 京都に一日静養せんとする、静と光澤  
 茶舗と見え、一茅庵台に今更に眠

三十一日

朝八時十分着真々大字尾籠殿に投大  
隈屋校中宮に臨む為め前口入法別の旅  
殿に在り、道邊に急ぎ茶の考め出張の片  
山利久余の旅殿に在り、谷村一太中、今も  
人とし不在を令せず、一浴後室町武蔵の  
扇高松月堂中村義信の方と到り各程の  
扇子を燦々北家有親茶家の扇子を  
心より著名の家也精巧他と歎き、余  
あしく扇子、酒味を感し隨筆中録す  
不あり而も未松月堂を知らず此の藩家不

二八

の扇十枚概其價十九圓美、研究に及る也  
人とす也去つて大丸を訪め社名に令し  
吳股四反を贈ひお儀二袴一給一の仕立  
を頼み午時旅舎に由り、車乗者、伶伶ら  
さを見す、午後自郵車を僞ひ片山と旅  
舎の娘を付せ南福寺迄を道邊し  
山嶽の舊跡列葉無隣名に入り元々  
庭園亦二方又流ん風流あり、故に甲志  
不特徴と云ふべし、家分の松林素朴美  
の性格にあら、終に露亭に入り、似る片  
山酒と好まき、却りて旅舎の娘頗る量  
あり、お庭に入る、北家未だ電燈を

用ひず、**蟬**燭を懸すも石女風也、ホシホリ  
を橋上、置き池水に映るの映り多きを  
見たり、**長**ふ念し、**如**後校友江口  
昭文来談

十一月

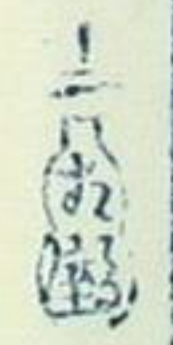
一日

晴、十時三十分大隈彦山侍、伴大政に迎ふ  
校友多く出迎ふ、先家記帳、授す、馬廻総  
長今朝着、**服**部、**山**中、**徳**徳、**吉**江、**山**山  
ノ、**吉**柳、**馬**垣、**山**皆、**着**着、**別**の記帳、授す、  
皆校友、今海濱會に歸らんが爲也、二時信

江流橋程、**来**部、**校**友有志と合す、此席  
を利用して、**道**進、**比**念、**吉**山、**集**集、**主**の勸誘  
を考す、此席、**孫**の担任者、**吉**山、**天**江、**河**  
井、**松**俊、**比**東京、**手**成、**う**席、**上**幹、**旋**、**即**進  
集、**集**集、**と**座するもの三十名、**合**後、**片**山、**吉**  
山、**山**山、**勸**誘、**の**以て、**花**家、**と**訪、**問**有、**旅**  
舎、**に**ゆつて、**後**、**此**外、**あ**新、**大**印、**来**訪、**五**時、**半**  
高、**能**、**じ**ん、**て**ん、**ぐ**を、**合**會、**館**と、**し**て、**校**友、**大**合、**を**  
い、**く**、**来**衆、**二**百、**名**、**未**首、**の**の、**成**況、**を**呈  
す、**早**大、**式**典、**延**長、**の**、**三**、**の**、**を**、**東**京、**と**、**大**會  
此、**合**會、**に**臨、**み**、**な**る、**か**ら、**手**、**長**、**出**席、**せ**、**る**  
七、**多**、**く**、**来**、**り**、**此**、**席**、**も**、**も**、**道**、**進**、**比**念、**と**、**吉**山、**の**



時、難波現一印と授務を託す、今朝事の木原  
木原を身、仲橋、赤尾の授友、余も詣む、余  
ひとり京都、赴今朝方隈屋に別れ、京都  
に赴く、高田、以、大改を去り、京都に在り、  
九と念をん為り也、十一時大又字家に入ら  
備、下村正夫、高田の書に在り、高田  
と余を小松谷の庄に伴、人と語ふ、友人、  
伴、九と其の庄に別る、未お多の香子に別  
る、然んを北庄、颯々、余前、  
北庄に、酌り、酒を、余に、元つを  
齋、候、酒次、余、行々、味、洛を、為す、  
後、辞、し、七、高、向、と、れ、陶工、洋、村、内、丸、を、訪



あ、え、能、君、を、贈、心、更、々、自、動、車、を、鹿、谷  
又、馳、り、法、然、院、の、境、内、に、入、り、亡、友、川、為  
次、の、墓、を、拜、し、法、然、院、會、に、由、り  
高、田、と、共、に、飲、む、其、向、乞、つ、所、余、に  
か、室、に、楮、婢、と、令、し、七、飲、を、つ、け、深  
更、研、臥

四日

高田今朝早く伊勢書名に向て是れ大隈  
大改を告ぐる、縁、余、の、行、か、す、一、日  
京都、清、在、と、決、す、此、夜、お、多、く、歸、り、  
今朝、的、な、漸、く、起、床、朝、の、晴、天、や、ぬ









読人とすまの春あり、大山二泊翌日名古屋に内  
へるの勢空にのつき余辞して半の老古屋に留  
まると擬す、蓋し翌朝こゝを離れ、蒲原  
に田中先歎伯を訪ふの約ある也、小山余に  
切に同行をすし、余心動く而も小山一行  
にかりり行くを欲せず、金山に語つて曰く此地の  
得月橋、余懸ちあう今又君を此橋に迎へんと  
す、余の道まるとす、得月に行かんか否也  
君一行のみかりり行かすんいそんか又留まらん  
小山曰く大山の勝を揺るゆ来得月と到らへ一  
半を得るありやと終に小山の説に従ひ急  
に行くことを議す、小山も終に一行をかりり

とろろ、午後二時柳橋停車場をこゝを去り一行  
十数人途中より校書七八加へり、柳橋より大  
山に電車通ず、此間一時半の時を要す、  
此今注に上東宿中し、此を記し、往て  
か故に歸る便室あり、途中岩倉大  
車をとめを、大津路の節際下の  
御料に供する、新形名の車輦を一匹見す、  
大山口にて達して下車、北湯谷に入り、橋上よ  
り木曾川溪谷の一端を見る、領主余  
に揮毫を乞ふ、又幸絶勝の二字を録し  
一行と共に船に上る、二艘の船と酒と校書  
を載せ一行今んと乗る、船は互らるる

此の荒船の舟歌と元禄末曾津波の合決の  
所より舟多き時、激し七舟を下し難き不  
也。庄由多き故に此の舟も亦多く舟  
之の觸れ激せざるを得ず也。幸に  
舟層甚し大なる舟、吾等北川を下つて  
大山山下に至るとも、即ち前刻電  
車に疾走して岸壁の下を三里下る  
也。此の間、舟の怪石多く舟層接の  
是れ舟の之を保津川の比すんが趣を同  
す。所あるも、女異なる所は、彼れは、  
北境狭く、船の陰鬱する之に於て、一方開け  
て、此境廣く、快閑也。彼れは、七怪岩あるも、之

九に於て、怪石の視摸、雄大なる、往々、舟の  
状を、舟の舟中より、突出する、よあ、優劣と  
論ずんば、吾人の、寧ろ、之を、優へんとせん、舟  
川激流に、誘はれて、自から、駛すん、も、往々、等  
を、煩はす、所あり、即ち、舟の、岩を、没して、舟層  
も、觸る、所、危、険、なる、此、舟、葉の、如く、舟  
の、波、浪、激し、元、津、舟、中、入る、此、光、景、全  
く、保津と同じ、危、険、なる、所、舟、を、繋い  
て、行く、を得、べし、危、険、の、ある、所、離れ、ざる、身  
が、一、時、向、ゆる、と、白、布、城、を、見る、の、地、状、  
が、城、川、を、臨、む、の、處、上、に、屹、立、し、一、山、の、中、に、  
形、を、為、す、の、を、其、の、城、下、に、望、む、又、く、人、

士と云ふよき人也又北附近に鐵橋あり元  
也又夙夜を添へてありかゝるは往年志願  
重昂北城下の風光のライン河に似たり  
故に日本ラインと余名し亦来北名を呼  
ぶ力志望に上流の青の勝のラインの流  
及ハせざる思ひ利をが、まに古城の如く  
の風景の似たりと見え斯く命したる  
きや余ハ日本ラインと稱するの不見識な  
るを一蹴せんとするもの也大山城の家康が  
尾張の城主を執りて武藏年人の長城  
より、後、電車会社住居の彩雲閣に  
入る余ハ小山移居とせし辭して、皇電車

に乗リ名古屋に降り、生博途中電車故障  
を生じ、定刻を遅れ、柳橋に着く山を  
しと直ち、駅の附近より得月橋に入る、先づ  
片山河津を招き、友人直ち、余三人と  
リ、こゝを宴をひくと、余三人、得つて曰く余が幸  
大に、早生やし時暑中休暇、岡山と友と共に三  
十日の旅行を終りし時、名古屋、物産中、入  
道、道を訪ひ、招き、えと来り、北橋也、屈指、入  
ハ既、五十年の経つ、今日、園を、古木、  
川、電車、の、終、點、今、溪、附、也、一、橋、の、有、り  
この、ある、を、地圖、に、繪、し、道、邊、の、生、ん、太、田  
の、庄、の、前、岸、に、打、ん

とるが其の日又こゝに來り、其の縁と云ふへし況ん  
や此行始の内の記念を事業の爲めりし花君は遠  
の爲め努力浅からず、花君はこゝに人々を  
好紀念する、余は遠く代々の志を以て  
諸君の機方を禱うはんとする也と河津等  
皆表こぶ、席上書を裁して大紙を遺  
報す、此日余等の爲め、設けし  
別殿に在り、母家の道を隔て、  
て其母家こそ往年來りたる、  
婦と誘ひんて母家へ一談し、  
廣りき橋上、余の記憶に  
の得月橋の扁額を掲ぐ、一方の  
を掲げ

ハ橋を眼下に元多くの船舶集り月ハ陰  
かハ吾人を待つもの如く、映し、光を放射  
す、橋名空しく、余の月久しく、橋名の  
所以を知らざる、故に始めて、  
中、刻に記憶し、往年の、  
を漢字に記し、今見んハ、  
乃西莊爲橋、美人林谷、  
つて思ふ、幸、天保の、  
こ書すとある、此橋に、  
細川林方の、  
で、唯、得月の、山陽の、  
るや、其の、時、仲秋と

いよいよ会すん心林がらあその橋の側と川  
あつ川を元とらうとやまき松子仲秋の  
折柄山陽か思ひつぎ得月の二字を以て入れ  
と力見えんつ、お山の言ふ家二橋ん心山陽ハ、この  
考の物か有る心ある為め未だと云ふてゐるが  
確かむといふ事をも詰つた。此の度ちも橋の往  
年来遊の節見せうし不~~い~~、其の懸念を  
●入二室連するも山室か記憶に存する事也  
柱七十ヶし古き其れなる事あり舊の其  
傍るもか考の橋の懐心の念を切らうしめ  
らう。酒次お山の語るをまげん此の橋の美の  
鳩山博士の書とさう近年歿しう、とまふ

然らば此點に於て此を考、綴る事あり  
と此中一矢する、昨日田中伯訪問の汽車  
の時間等を定め、初の片山を伴ひ、其の家  
葉集の都心上余單行訪問と決し十三  
時よめを撤し、余ハ八幡橋にゆくり橋畔と  
し、即して臥す

七日

昨今朝の時早起床朝飯の後自動車に御  
あし私会を告し十一時十二分の特急を  
尾古尾を越り、上野の御生食支店へ  
見えり、未だ、車中無折始めて後者、親

一、二時十九分静子に下車、直ぐは自動  
車を備へて田中光顯伯と蒲原の寶  
珠在、静子の蒲原に急行汽車の停車  
せざる所を前年七時静子も自動車に  
て赴き、静子も蒲原に自動車を一  
時間を要す、伯備在邸を去りて一  
余学校を代表して女の親戚の維新  
前後志士の墨蹟万葉の幅を室の壁  
に懸けしを謝せん、特に訪問し、  
余伯に告ぐる、伯の肖像を画かせ伯の自  
傳を讀ひ、一日一幅を永く室の壁に懸  
せ、死時、掲げし恩誼を謝せん、伯

に謝するの法此の如しと云ふ、伯の肖像を  
画す油絵の肖像を欲せり、画幅ハ七尺七  
寸、紙と云ふ、晩公の御心を乞ふ、五時四十  
三分の汽車に投じ、日お長無聊を扱  
め、讀書に耽り、十一時東京に着、其の家  
に入る、こんを今回関西旅行の旬日の訖と  
あり

八日

晴、男之中の家務を乞ふ

一、庭園の築橋、袖塘外垣、松一、不成  
二、門の入口コンクリート打ち、了

一 植木屋手沢代并に杖部 純貴先  
月未だ一人公四る二十九日五十五歳  
拂酒

一 佛壇襖六枚張替酒

一 真珠桂治り二女二重須成糸

石田肝煎立寄る石田泰

悟と縁約成り物を贈る来り

一 高心鞋快

一 信茶切一侍士より銅の花瓶を

贈り来り四比のらり茶無を

贈る外に新築お祝として

物を贈り来りしり不あり

一 プラトニ社場又設け社およ

り余の字の稿を赤め来り

一 各本より社達の施信地を為す

一 施の中心圖書銀テあり余満演

を流しするに終に路出能りす

北朝以上来り注射を施す植木屋茶家

前のかう池にコンクリートを打つ平山堂よ

り来り目録列来和田島女らと来り

ホク江第一満家との境界一件二つき来り

訪遊を吉田友人不在中の社務二つき来り

法松う梅女ゆあり秋の由を贈つて来り

高の貯金の由を千七る用引出し来り



十日昂らうと建築費に融通しつゝよの五印  
報の台湾、ゆくまの(五)五の四をよ  
今日夜給報類の為め夜に午念を  
九晩万一浴一解 早く臥し ぬりの方を  
然す

九日

晴、町のまじりなきに不在中の日誌を採し  
り、小林望三田中伯を主の物品陳列  
の件につき未だ活植木を玄關ニケ不入  
石を抜き又玄關前植木の周囲ニ石を  
置く箱村宗八出渡新の件に日立活植木

の二つの活植木中ニ古状を覚す、又本  
間氏弘下村心大らに野行をせり  
又二宮春暎に近前を投り、午後供り  
日を伴ふ山遊文の巻に回者流り代金る六田  
根崎、銀生に電燈の又ニトを贈ふ、晩乃作  
茶屋に酒飲してゆつ、不在中、市ありの  
光りす、

十日

晴、大江乙亥の田村社ニり、日本歴史回録  
才一覽配本、又江成一階家と境果海を交  
渉の結果を報す、大工林淵を満家、老  
し、備根を心るこころのまじりぬる

京都大文字屋を大徳寺納豆二廻り  
来り、帝もこの安達受来法河州安後  
より来也、名塚三ヶ所、新築落成を祝し  
金品も亦のせり、以て関保合祀の社人も招待  
す、三ヶ所、生園、席と申す、是れく、案内  
夫高の徳台と云法を交也、森陽馬村合  
祀、三ヶ所、高尾法寺より来、幸、午後申  
出、大寺、寺、時、齋を法して去、鐘田村  
送、法、池、水、の、山、支、店、轉、勤、の、こ、と、を、報  
し、来り、主郡大文字家の民、此れと為す、  
み村、大寺、寺、寺、大、是、合、法、列、目、録、と、記、す、  
植木屋の仕事、今日にて畢す。

十一日

昨日朝八時、改本三ヶ所と法、早大監事、辞任  
を引、あ、ん、と、万、方、修、撰、十、一、時、中、中、中、法、漸、く  
和、く、記、の、も、未、比、議、す、る、も、二、三、反、人、と  
協、議、せ、決、す、と、云、ふ、し、り、別、れ、て、ゆ、く、  
日本舞、如、今、此、様、主、院、の、も、勝、利、の、改、修  
未知、久、北、川、法、寺、新、山、湯、と、祝、を、来、出、十  
四、日、早、大、維、持、會、の、通、牒、を、受、く、大、丸、  
京都、出、先、に、心、り、等、衣、敷、代、る、四、十、三、日、七、十  
五、日、佛、海、新、法、成、り、の、主、米、と、梨、子、一、返  
を、送、り、来、り、山、形、の、作、長、に、依、附、さ、ん、上  
田、秋、岡、寺、法、卷、頭、是、字、成、り、其、子、息、に、法、を、

前田直流集の前田尚士集誌、巻二、校の同  
十数名と作爲す。一、招へんと谷板市河の塩  
原に刊り紙を

十二日

時、十時出版部に刊り幹部会を閉じ、本  
巻法、并、早午紀念につき、守役職員の  
の酒肴料、以、雜件、も協定午後四  
時、入、新、多、物、台、の、金、こ、上、こ、の、き、紙  
費、五、十、回、交、付、物、主、の、運、築、に、着、手、  
謝、二、乗、一、七、雜、紙、を、著、す、東、京、の、こ、の、き、紙、  
部、と、し、沖、本、常、去、日、了、新、年、号、に、余、の、言

行をもとに五時、借、出、國、に、も、余、に、新、築  
と、祝、と、金、品、を、送、り、七、時、日、印、解、出、紙  
部、文、の、場、合、諸、名、十、四、名、も、招、飲、す

十三日

日

時、依、爲、津、島、と、野、を、楠、漱、日、年  
才、の、坊、志、任、を、吉、原、百、島、整、た、る、ま、り  
山、陽、如、市、の、杖、上、集、を、示、す、買、酒、法  
人、の、お、め、え、雜、人、劉、を、表、す、十、名、接、あ、十一  
時、光、を、は、あ、を、三、紙、に、精、子、を、購、の、偶、に  
新、年、の、も、と、校、書、長、智、智、池、田、菊、江、に  
謝、意、午、後、紀、堂、を、お、り、再、び、金、品、を、入



つるを多と一紀念品を贈る方を報す午後  
より小雨

十六日

雨上村 畑田中約字の好書畫海防の二溪  
一未摘 繪七田内其の次は未摘の  
の切手を好くする 関大の未摘並  
木是を好くする 双鯉の製を好くする  
枕頭香燈又又この其の好くする  
十一時迄を好くする 城二物を好くする  
酒飲して武蔵の味を好くする 乃の好くする  
有るに飯して由へ五十五時迄の味を好くする

川来

十七日

雨田中走勢の細書をもつて庭園の落  
葉と柿山山田内其の味を好くする  
炭政の味を好くする 木林脚の味を好くする  
二好くする 木林脚の味を好くする  
一好くする 木林脚の味を好くする  
寒の味を好くする 木林脚の味を好くする  
一好くする 木林脚の味を好くする  
未だ午後早大回中飯にもう田中約字の好書の  
書畫をもつて二時大隈會校に好くする



田三夏に託命社に預け入るべく吉田香へ二交付  
牡丹の飲志、出取部より近刊六部配本

二十日 日

町直政の桂次中如時嫁二のき祝儀に反物を贈  
三、阪上弘花より注射を施す、免度副知事  
出取部に株金三万七千九百圓以上二交付し、  
二十万の株金額拂込満額(保証金)二万五千圓を  
こめ七)中出半次中胸後除幕式案内刊  
(廿六日)物を寄贈して内分を昆岡寺に寄附方へ  
寺に、五十の族望、味代十の部員、小井原三  
車泊毛利三言三言、就るあり、かき寄る心遣

張懸二諸人金二のき一協液してあり久須美秀  
三、中十の族望、味代十の部員、小井原三  
阪上弘花の祝儀(二)を贈る大  
華、寄附を求む、還す、大吹久、亦と祝  
入院を要する、吉阪工より、後上、  
入院して、午後三時、  
と精ひ、酒飲して、外出中、  
果物を贈る

二十一日

町田中徳、旗本、  
は、  
念、





二十三日

大祭日

昨早朝自動車を起す内倉久意を麻布一訪  
 あそ物を贈る春礼をまき、由路崎上着次  
 三三三のう久の着状をまきまきしつゝ訪客  
 二更しをくめさる換泊をいしつゝ、砂利代井  
 五因停あ達元音一節の着状をいしつゝ  
 忠佐堂者衣下着る贈る本をいしつゝ谷村一太  
 即ち茶をいしつゝ、新大改をいしつゝ白  
 味酒や若利幸隣家旗高のトタン堀合部  
 成るあそもの分り中成る、堀井一新村山亀  
 一評しつゝ越後味酒五斗箱を贈る未の坂上  
 英渡副今社を株券列来、新河支田信

吉と梨果一つ初到来

二十四日

昨分、山崎の車に換るをいしつゝ本村山秋海  
 一評しつゝ楊守教二の昔懐懐世帯をいしつゝ  
 一評しつゝ廣井一評を列る、新打出し余の徳  
 葉下中の一文筆の奥像も中々な副後本  
 現代文物選の内、収めんことをいしつゝ  
 直に流をいしつゝ、福富の未記の人記虎  
 頼三らしつゝ川田未像二つをいしつゝ未簡、新河  
 一評しつゝ北城新結、お花をいしつゝ余、新河集をいしつゝ  
 一五十田の商品の手をいしつゝ新河集をいしつゝ



供由部を訪ねし松浦伯耆家の持品を  
五を見し流石と思ふ人故味家の持品を  
て見しときよの言多し一時は田代を  
あて初め政とけり田原屋に飲しし物  
其時桂太のいふ村の言多し来りて  
合村別荘に税金十四圓の納付部能  
今就配南金銀取関方りし事出平  
山中の面を有する山陽印の鑑定をもと  
む松浦家の目録一冊七巻多くと上田茶  
軒より来り

廿七日

晴、田村在二ヶ文の末院の住持の言多し

其法廣井一中風を病む印一枚を  
る、西村真法其の法を以て詠しとる、出  
柳子久の病を詠ひる中なる物を詠る  
時之とせし出題を田原屋に付ひ午  
をせしめて別荘京都の村に  
余の詠るの言多し本なる言多し  
名に結を漢を托す由筆後松浦を  
五時ち山の大隈野の由原と又須美と  
松之ん行く呪ふの言多し受け物と  
合社員津田豊之流し魁の横川を  
来り、走せし言多し見る言多し  
る狐持多し未尾の言多し

二十八日

頃朝又旅券を申請し、夜上りの汽船を施す。  
又舟物に就て、絶望と報す。河林寺後祀  
念寺禁裏の打金の比も、木林侍西と  
龍寺と提督の新政堂を記す。(二の寺) 程は  
一七五三、午後舟旅分後、到り文の協  
今の宗政令をひこく、在井大使(子音菊  
次郎) 四世聯心で、就て、松延大子教授  
中印(朗支那)の事始に就て、藩政の  
四時(子音)令を流し、諸角秋(子音)も来也  
中大回も彼去(十三日)三月三日四日復無  
改今の宗政令(此)也

二十九日

而坪内此念寺(宗)事始下(自動)車(運)を  
田(是)り来(久)の(見)ぬ(光)新(浦)の(市)場(を)持  
ち行く(本)林(宮)田(村)文(命)書(遣)の(経)海(河)懸  
二(の)寺(来)訪(者)時(り)こ(こ)る(想)記(の)方(也)  
を(協)議(し)村(山)兵(衛)来(訪)言(能)一(交)付(候)  
田(増)中(ら)共(に)身(法)時(候)後(何)の(事)内(別)  
の(十二)月(廿)五(日)京(金)銀(貨)高(田)計(り)候(事)也  
也(久)矣(折)夏(一)花(馬)の(報)を(三)又(け)来  
二(見)為(ふ)矢(以)有(三)と(り)四(時)と(音)黄(茶)井  
意(来)診(一)且(内)電(晚)を(後)内(子)行(く)旅(子  
意(誤)有(一)余(亦)行(く)九(時)會(終)に(折)く

久吹の親族皆参り、貴族を並り下迄の  
の久吹方に参り、先礼文三紙保んつを  
めり一時の余心より御書北の村山秋浦  
に桂月の西極を梅の出版部を印  
税助を御参り、四角田清方へき御書  
也、久吹後キリト夫の洗札を参り

三十日

今朝文三光御書参儀二日二時基督夫の式  
も用ひる日法し、先と久吹を参り、夫の久享年  
三十五、久吹の歳して八年、一男を奉り、出  
柳子より、山崎重徳、孫く、電報を参り

久吹云々の報す、其の夫婦、七歳妻が  
一、デニ合祀の花輪を注文、先の喪服を果  
服店に託す、毛利家考、一身上の用器、  
一、きり、御書、北の村山秋浦の御書、  
先、法大坂、御書、御書、御書、御書、  
業、一、御書、御書、御書、御書、御書、  
御書、御書、御書、御書、御書、御書、  
星、御書、御書、御書、御書、御書、御書、  
田、御書、御書、御書、御書、御書、御書、  
七、御書、御書、御書、御書、御書、御書、  
き、御書、御書、御書、御書、御書、御書、  
一、御書、御書、御書、御書、御書、御書、

植木屋勘定より二内海トタニ元三十二内海  
幸都大丸袴代三十四内海

〇十二月

一日

晴大阪直の形も北の池著一内海を寄  
務する大江乙難波現一内久死云このき悔み  
未三、住友信託とも預金の利子を以て未三  
元金へ繰入るこことせり。五難市中瀬徳  
定(未三の一人)より山陽支店長の形者を頼  
まひ。昆布を貯るも、改上河橋士二房火の  
為りより未三略奪に對する注射を施す香

典三十四内海吹く送る諸内海を中一復す  
〇崎房の訃報の望原又一書あ死云二の内  
香典十日郵送大江乙妻表代四の子兄高  
三素より内子を吹くをす、松平頼壽伯石  
液あ一、投函共、城内公念子某の葉  
無用也、志田素人、二間す、今夜走  
柳子をばりて又吹くわく、高田通代社  
うり、昨日午前東京今彼、能の重役  
を辨く、通謀利の和田素人、う梅牧利の  
前田橋士病史の為り身診

二日







出、前日来、珍、帝、通、河、志、念、今、ら、此、禮、の、を、改、  
今、の、決、言、三、つ、わ、り、又、吾、の、決、議、又、を、ま、り、来、  
る

五日

時、島、山、海、三、白、井、雅、雄、に、帝、狀、を、見、了、す、各、者、  
典、上、山、為、給、同、出、る、方、亦、流、吉、丹、三、つ、家、者、  
の、為、の、短、冊、十、数、多、揮、毫、投、郵、小、  
久、以、計、也、この、叙、境、界、の、為、の、輪、旋、の、き、し、  
禮、の、美、一、箇、を、贈、る、人、事、具、院、所、に、略、歴、  
を、寄、り、す、谷、村、一、つ、り、し、史、蹟、天、乳、記、念、  
物、寄、り、こ、り、き、給、事、略、も、十、時、出、放、り、

る、り、本、書、株、也、主、儀、事、を、ひ、ら、き、二、三、割、  
の、配、申、也、を、決、す、余、の、三、つ、り、な、り、配、申、金、二、千、  
ろ、七、十、五、兩、一、株、三、つ、五、兩、一、兩、一、金、二、千、兩、  
を、三、つ、り、の、部、へ、借、入、金、貳、千、兩、及、部、  
出、出、取、部、へ、借、入、後、任、給、満、了、す、三、つ、更、  
ニ、重、任、大、坂、の、石、橋、善、三、郎、出、取、部、へ、借、入、金、  
三、つ、り、主、儀、補、給、の、き、大、隈、侯、と、り、関、係、に、  
関、し、て、内、儀、す、ま、つ、て、ま、り、〇、山、内、儀、に、  
同、意、中、原、貞、三、郎、の、義、兵、衛、に、臨、み、上、梅、  
宗、院、に、列、り、林、田、邊、ら、り、の、告、別、書、に、  
列、し、て、賜、る、早、大、も、も、道、殿、関、西、行、の、旅、  
費、追、加、四、十、五、兩、ま、り、奉、り、今、夜、欠、吹、



七日

晴山田河尾難波現へり片山利久河舟等  
後未訪、東都地之河合實字り尾花籠を  
傳へ、價三十九圓片山に渡り、取合志物  
才三斗と書物義彦と云、利未、其時桂次  
郎と云、垣川と云、是を千圓才一現  
行年と云、支店、強け入ふ、光を味むる日奉  
符の筋屋、一、二、三、之の權、是を屯、購ふ、亦  
施名を、傳へ、二時半、地書、休屋中、石原  
善三、中、子、河、印、別、合、社、の、来、道、に、地、と、獨、く  
了、穀、面、控、直、毛、金、夜、東、京、合、股、に、於、て、坂  
田、誠、の、流、時、枝、夜、に、振、え、行、く、蝶、均、増

田美一夫、佃也、其、山、田、状、も、是、り、其、年、一  
の、方、木、利、太、く、地、花、目、録、を、定、め、未、大  
後、森、也、云、と、未、也

八日

晴、朝、美、揮、其、毛、森、森、夫、に、冠、冊、五、枚、郵  
寄、り、市、街、義、彦、と、云、状、を、是、り、田、中、准  
二、印、是、子、專、一、流、時、枝、夜、の、書、内、状、附、  
こ、一、十、九、の、工、業、信、字、印、を、以、米、奉、と、未、也  
高、木、利、太、く、日、中、地、花、目、録、を、踏、ん、だ  
三、付、海、状、を、是、り、す、富、山、新、も、是、り、思、ふ、事  
と、一、書、子、を、題、と、大、隈、家、別、紙、と

貸付品を力付先を、船好を兼し七時  
を移す。丹兵衛原平を来信、三時大股合  
信、利子、衛生命保合社の十二支社  
共を更へ、券集を以、新博巻、案内し  
余の二巻迄著し、を贈り、余一場の撰抄、  
設と一、指内の紀念券集、及ぶ一、即  
宜に共拾圓、一、應募、案云つて後河井  
片山、林、山、と、券集金の打合、と、  
前回来診、夜来、函

九日

而不返、り、来、り、久、入院料、と、一、七、協、

十時、時、口、印、刷、合、社、の、重、役、合、に、臨、み、来、  
末、の、社、員、集、り、利、益、配、分、一、割、計、廿、四、日、株、主  
総、合、も、の、り、中、才、を、決、す、本、季、成、績、  
長、一、可、也、十、二、時、三、業、集、任、在、戸、に、中、以、り、  
大、株、主、の、多、く、酒、色、一、更、に、今、し、指、の、社、員、  
と、業、集、一、つ、た、事、の、り、中、才、を、決、す、去、り、  
貸、付、品、の、重、役、合、に、臨、み、来、  
不、可、新、以、り、社、員、を、定、め、り、中、才、を、決、す、  
自、身、の、間、大、工、州、關、南、村、に、多、く、道、業、の、新、年  
書、を、送、り、仕、持、錢、金、者、三、千、一、百、圓、の、新、年  
賀、と、文、の、間、大、工、州、關、南、村、に、多、く、道、業、の、新、年  
大、皆、著、い、皆、を、臨、時、二、書、に、属、す、既、に、仕

拂を畢り、以て我の二萬三千餘圓あるは統額  
二萬五千餘圓の概(植屋拂表と別拂約二  
千圓を合算して)大正南八の計額に、第四  
通信社も来る也

十日

時、大正南八死云に甘平状を返り、大工も  
提出の計は、赤青も壹身、阪上先より初めに  
血をとめる注射を施す、大隈別邸にも急  
ハコセ工、方を送らる、森田司より大隈侯の  
政況(動)動のつきまの二意をいふ、多けし  
と云ふ、大工角花の山物もあつた、前日  
市橋流去るも来間今夜来る、都下の音

新着指辰まを扱く余臨席するを也  
阪部員に任せて行かす早く臥す

十一日

日

時、朝来七時を以て園寺を敷設、大工  
角花来る、計は赤青の壹身定成る、出入  
す、き強額二千三百五十三圓、昨日  
油料を約す、角花義彦も来る、上杉  
里市、文書、庚子来る、市田通位社  
り来る、富山通三も海に別々、園  
り来る、十一時迄を以て、日橋  
物と、船の味、角花、飯、七時



引渡満こんを総額揚屋、本林安ん  
り湖也利、市中も同志層の宣傳有列、前  
回来論

十四日

前朝来日記を拾、日報を追加、前田く  
の後の田舎料七十日拂ふ、村山秋實  
訪、高湯の八井の幅購入代償の七十五圓の内  
る田不田者画提供七十五圓正を拂  
外、楊守教極代十五圓拂済、前田博士、ほ  
由得りや五一冊を贈る、清生、原も、新築  
を祝、三十一日の高品切手を送る、来、十一時

己元を信を赤雲の表を、原を、訪、田  
原を、酒飯し、三飲、四、二、三の飯を  
請ひ、下宿の武府、飯の味書、を、元  
移り、又、油書、平山、あ、も、木村、橋、雲  
の書、冊を、定、を、来、る

十五日

時、本林、陽、美、村、を、法、服、部、耕、衣、来、訪、也、著  
家、を、字、林、を、贈、る、也、貸、し、つ、互、き、な、る、漢、銅  
印、書、の、二、通、返、却、上、也、監、証、來、訪、村、上  
美、ら、も、も、ま、り、復、り、を、給、る、来、る、也、其  
略、典、二、も、給、る、也、刺、美、平、山、也、始、没、理

一印を以て来前大改の形を祀と改  
 皇三十四年刊行似し何れも潤筆中  
 征表ありし後刊着すし午後為骨  
 銀紙と澤多し多く時を費す令津  
 八ふし来前且の茶山所刊瑠珀印  
 を好む直印瑠珀花より又刊文  
 八内詩也今津二湖とありす  
 表も未言す其時典二、七湖  
 状出す、晚可方田橋より身  
 三年式ま何相二行萬葡萄酒也  
 台湾之極他二山中推し久の市状刊る又昭味  
 収田増ヤリし未也

皇三十四年刊行  
 皇三十四年刊行  
 皇三十四年刊行

十七日

晴朝来致致者孫目録を修む、喜々尾に托  
 一、了朴派友の情志懇成る者吾社を臨  
 兼送集配本、直つ時典二、海状を為す  
 池の龍一可る、上野狂歌の着録冊数  
 指直毛午後出段部刊り古をさるす  
 又半番香大英集とあり、物書後又園者目  
 録を修む、村山高嶽、不林漢三、りり事  
 少あり、奈良清を送る未也

十七日

晴上野賦程の爲相是物書回者目録を修む





談を聴き、一蓮寺工其事役車引に到り田  
中寺一木木山の女の姓密教の故の字の  
三協の余被辭と傳ふ、味好の字の由  
也丹里六原平とて其寺、好く又り三成よ  
小幡心入らる相の三置、司利意、出取  
部も色道利回能能、其の字の由  
別在の密教も又、池尻頼三、赤城又  
次中とて未也

二十日

時朝来書書也を懸現し六月六日抽出の十  
数と録す、及上来る江射を施す大改六

自宇大ら、与姓の塩川を送り来る、赤城  
又二の、谷山を懸、而本丹里、塩川  
三尾代十三田新志、塩川二尾、山大隈  
、一尾、高向、贈、並木、元、本、治、日本橋木  
屋、三尾、物、大、棚、と、婚、ふ、取、合、は、公、を、と、一  
と、婚、ふ、傍、二、百、七、十五、日、此、棚、に、流、二、枚、に、米  
某、の、米、書、を、携、り、銀、銅、を、以、り、も、出、す、米  
頗、る、玩、好、す、茶、室、の、一、隅、に、置、き、印、送  
十、数、を、納、め、ん、と、す、也、三、瓶、三、三、三、の、ま、あ  
を、婚、ふ、川、原、と、婚、ふ、内、くる、剛、年、の、お、と  
乾、海、若、親、其、成、入、寄、郵、六、月、用、入、紙、也、を  
為、り、今、夜、お、喜、被、三、三、合、を、ひ、く、余、南

書

二十一日

時森松夫より来。此段部より山大塚村  
酒も贈る。宛紙を著しし時を待す。木  
屋も家のり大相利達。茶室の一隅に  
き大木の印達廿四個を納めし。此  
午時四層を改し二三の物を焼く。物  
表の屋に古家の襖を托す外一二托す  
曉間休む。伊一より大隈屋より酒并に交  
物利子。久次者三より来る。並に今  
段に記す。河井甚後と投簡

二八〇

二十二日

以河井甚後。前す。新沼山三八も果物  
を物り来。又吹者三を陸谷の店に去つて  
日清生合保冷合此。到り早大の然亭  
目録を合分と紙を石原義三即ち来る  
岩倉公遺文一巻を山田英吉より郵送す  
ハ久江村一出版部。印刷物印刷分此仕換  
一の件二の事。早大。早大。河井に書す  
き金三の圓を返し来る。竹田の木の鑑  
定も頼之。取し。池に先頼三。昔状も  
甚。取名を去す。情文。謝金。山  
利子



百八十四

大工拂

三十日

新及等書

三三日

松之夜拂

三日

加藤、若等

百廿四

不塚齒洗奉

ノ百七十九日也

早稲の谷報地の金井一中等助金三十日  
持巻、田中寺一寺の挨拶の長久寺あり、大石現  
田中寺の千後二時印刷舎此に到り半季株  
主原今、臨み既而一刻其他有案未あり決す  
本寺不賞典金幾千八百三十一日也既而金七十七

山田地持方山田英等もも来前今夜社  
冊に今此の幹部の会といふく、矢吹  
華族會館に親族を招く先出席

二十五日

明日、改口献夫等此、とゞ草を贈る、文藝  
伝出部もこの行派礼とて十日の高名  
米利等、先を祝する日、橋松竹を散  
葉物を贈る、坂口も、醬油一樽を贈る  
書物有村口山本細川三三、金百五十  
掛添十月中の功定宛、坂本三郎、山田  
岩校の也、も改口、新山山三八、海也





装束置す、夫吹くも音真及し、物を拾り来  
り、出取部も道邊の沙為海魚配を、今  
度六次方よりを拾う集居あり、花と葉子  
を高く、元久し、山田清川に、涙のんて京  
橋、未可幾分、小松、飲む

三十日

晴、表甲、尾、古、海、集、る、自、抄、を、換、出、し  
目録を、紙、に、此、の、事、を、新、版、記、し、未、だ  
定、か、ら、ず、先、を、付、す、日、も、持、ち、物、を、購、り  
大金、に、致、す、ピ、ア、ノ、神、傳、の、事、久  
富、の、後、出、来、し、記、し、金、田、に、取

上  
八  
八  
八

鏡の修理を託す、日傳生合保、淡合社、大  
リ、一、月、十、七、日、歌、の、伎、産、觀、劇、を、奉、向、此  
列、の、余、が、三、十、年、来、河、新、を、隨、行、し、此  
の、抄、本、積、人、の、山、を、為、す、紛、乱、甚、し、く  
寄、り、二、冊、致、す、事、を、記、し、事、を、記、す、昨、の  
未、教、地、を、の、目、の、目、初、め、を、成、大  
休、の、部、あり、一、部、約、五、冊、と、す、ん、心、六、百  
冊、と、す、。、地、の、旅、程、を、の、事、を、記、す、也  
惜、し、き、氣、が、する、且、く、存、す、も、と、坊  
け、る、事、也、。、関、大、中、に、自、著、の、事、を、記、す、也  
寄、り、二、冊、致、す、事、を、記、す、也、。、保、來、利  
在、





年末の日港、一年間の主なる事と保  
 することも例としてあるが、本ら  
 殊にありつゝあつたを録する事  
 多し、此の港の向る事、其の紀  
 要は、雅訓録の巻八の末に  
 収められ、其の末に、  
 昭和二年除夜

